# 農村振興土木に現はれた佳話（一）

路政僧

政府が窮乏してゐる農村を振興せしむる爲に計畫した、所謂農村振興土木事業は、所期の效果を擧げたかドーかは今のところ工事施行中であるから判然しないが、區々に批評されてゐる、政治家は政黨的の見地に於て成功だと言ふもあれば失敗だと言ふもある、併し是等は政黨的偏見に依つてゐるのであるから、議會での言論に就ては餘り囃し立てるだけの値値はない、唯だ山本內相に立てつきたい政友會の連中でも失敗であつたと言ひ得ないところを見れば矢張り內心效果のあつたことを語つてゐるのであらう、××會所屬の代議士某が、黨として賞讃の辭を述べることは出來ないが實際によくやつた。と唐澤內務省土木局長に私語したとやら言はれてゐる位だから、失敗だと言はれても氣にする必要はない。

金を持たない農民に働かせて勞賃を渡し日常生活を樂にさせてやる、其の働きに依つて、だうせやらなければならぬ土木事業を起し農村の振興を圖ると言ふ一石二鳥式の農村振興土木事業だから、事業效果を觀察するに就ては、賃金のことゝ土木事業の施行方法と事業の效果との三點に就て判斷せなければならぬ、併し其のやうな七六かしい調査は役人の手でやつて貰ふことにするが、村當局が村費の負擔金を免るゝが爲に人夫賃の頭を刎ねたことや、工事の種類乃至は施工地の選擇に地方政黨の爭を惹起したことや詮じ來たれば色々不愉快なことを耳にする、併し夫等の非行は全國各地にある譯でないのであるから、夫等を拾ひあげて

振農事業全般の效果を判斷すべきで無からう。で筆者は此事業の執行に方つて地方民にどう言ふやうなセンセーションを起さしめたかを見たいと思つて見たが、筆者は生來人間を善と觀察してゐるから世間で所謂美談から覗くことゝした、併し所謂美談は事業起興の動機からすれば美談でないものもある、夫れは後で總決算をして論評するであらう。

## 岩手縣の卷

**雫石川の改良。** 岩手颪に吹きつけられながらも雫石川改良工事はとん〳〵拍子に進められ。工事場は約壹千人の人夫が火事場の樣な忙しさの中に築堤工事を進めてゐる、併し人夫は總て疲弊した農村の住人や市內から來た日傭人夫なので、インフレ景氣とは謂ひながらも稼ぎに出たくても足袋もなく着る着物もないといふ、まるで無いづくしを言ひ現はした樣な生活者が少くなかつた、そしてまた現場で働く人の中には、極寒の木枯に破れ草鞋をつけた素足も居れば、手袋を附けないでショベルすら握る力が無い樣な連中もある。夫れはまだ良い部類なので中には糞食すら持參することが出來ないで、皆が焚火にあたつて飯を食ふとき大勢から離れて辨當を盜まれたと言つて探し廻る振りをするものもあつた、事情を尋ねると夜もすがら子供等にお腹が空いたと訴へられ、晝飯の分を子供等に與へたゝめ持つて來られなかつたそうだ、見るに見兼ねた所員がパンを與へる。この樣なことをマザ〳〵と見せられて人生の暗くなるのを覺ゆる程であつた。これを見聞されたのが仁王幼稚園母の會の人達である、この母の會は市內有數の夫人達の集りで、彼の平民宰相原敬の姪にあたる小笠原氏夫人、元軍醫正又重氏夫人、仁王聖公會の村上牧師夫人、盛岡高農教授富樫博士夫人、市內切つての老舗宮重の若夫人、村井勘兵衞氏夫人等を初めとし工營所員の夫人も交つてゐる。

此の方々が人夫達のために市內家庭の不用品を集め、昭和七年十二月六日不用品バザーを開き、各夫人自身厨川村迄出張して販賣された。品物はよく賣れた、蚊帳と枕とを十六錢で買つた者があつた、一生買ふ事が出來ないかと思

つたと云ひながら紋付を六錢出して買ふ者もあつた、壹錢の足袋、二錢の手袋、拾錢の靴、かうした物が並べられてあつた、不用品八百餘點を買ひつくした人夫達は母の會の人々に感謝しながら引上げて行くのである、振農事業に附隨して表はれた人情美は心嬉しい。

**軍人式の道路施業。** 岩手郡御所村字大村森林消防組は今回の匡救事業に際して、自村天沼繫線道路工事に從事したが、同組員七十人は義勇奉公の精神で十二月十五日から四日間、嚴寒な吹雪の中に萬難を排して朝は午前五時起床、同五時半朝食、同六時に出動して現場に着き、直ちに作業に着手し、午前十一時半晝食休憩、十二時三十分再び就業午後五時半罷役して器具機械の點檢を終り、午後七時に夜食を濟し、同九時迄精神修養及幹部の訓話などを聞き、九時二十分に消燈就寢することゝし全く軍隊式の生活をして工事に就勞する土工人夫の指導統制に方つた、夫れて喇叭手四名を置き、土工人夫飯場一ケ所三十名乃至四十名として宿所七ケ所を設け、喇叭に依る規律的動作で作業に從事し、さながら工兵の活動を見るやうであつて、これは他の一般人夫の模範となるばかりでなく、在鄕軍人の練習ともなれば未教育兵の豫習ともなつて好評を博してゐる、軍人の政治的活動は御免を蒙りたいが、此種の活動は結構なことである。

**虛弱き者の活動。** 東磐井郡猿澤村地內の府縣道猿澤花泉停車場線道路改良工事は特殊技術を要する作業は一般請負業者に地元民及び附近居住者を使役することを條件として請負はせたが、路面工又は砂利敷工事は猿澤村道路保護組合長佐藤洵に請負はせて作業することゝした。然るに本村では林道開設事業、耕地整理事業、匡救土木事業等の各種の土木工事が起工せられ、就勞者は賃金の比較的有利な方を選んで出役し、人夫を得るのに困難を感じたのである。其處で本組合長佐藤洵氏の令孃アヤ(一八)、トキ(一六)の姉妹は自ら進んで砂利採取を申出で、寒風肌膚を劈く折柄猿石川に出向き一箱三錢の報酬によつて二十三箱を採取した、姉妹はこの樣にして連日勤勉努力する傍ら、衣食に窮

する同僚に晝食を分與することをも忘れなかつた、そしてこうした二人の奇特な行爲は間もなく人々の知るところとなり、更に父母の慈愛の膝下に徒らな日を送つてゐる一般婦女子の覺醒を促し、彼女等をして競ふて二人に見習はせるに至つた、この結果、小なるもの必ずしも侮るべからずで、該事業遂行の上に至大なる効果を顯はしたのである。殊に右姉妹の勞働によつて得た報酬は全部匡名で、出征軍人慰問金として盛岡聯隊區に發送したので、一層其の崇高な婦德を讃へられてゐる。

また本村道路改修工事の砂利採取に從事した盲人藤田榮吉(五五)は、不具者の身にも拘らず分相應の働きをしようとし、十四歳の娘を杖として寒風に晒されながら父が篩へば娘は篩に砂利を入れるなど、不屈不撓遂に一日に三十箱を採取し九十錢の賃金を取得した、この樣にして毎日現場に出役し勤勞前日と何等異るところがなかつた、そしてこれを傳へ聞いたものは皆其の意氣の壯なることに感嘆し、その共存共榮の權化とも言ふべき行爲を推奬してゐる。

**架橋の献身的奉仕。** 府縣道黑澤尻横手線橋梁和賀橋が昭和三年落橋したので、縣は暫定的方策として渡船を設けて、辛くも交通途絶を免れて今日に及んだが、一方同個所は府縣道として不得策な場所であるため、縣が道路の切替を行つたので、同橋は全く縣の直接管理から離脱する運命となつた。併しながら此橋は横川目字八當の外部との交通の關門を扼し、殆ど林産物の收入に依つて生計を營んでゐる同部落の生命線とも言ふべきであるから、その落橋は産物の搬出を阻止し其のための損失は年額約八千圓にも及び、部落民の生活を脅かすのみならず一方兒童通學の不便も亦尠くない。そこで同村の小田島林藏は同部落出身村會議員等と相談して右和賀橋を架設することを計畫し、東奔西走したけれども縣下の金融の梗塞及び一般的恐慌のために未た實現の運びに至らなかつたところ、折よく時局匡救土木事業が起つたので國庫の補助を受けて起工しようとしたが、横川目村は配當金をもつて本橋と共に他の道路工事をも計畫したために、本橋への充當金額少く遂に其の實現を危ぶ

まれるに至つた。然るに同人は有志と協力して、本橋に使用さるべき木材部即ち補剛構材、橋床材等全部自己の所有する杉材を無代で提供したけれども、尙ほまだ工事費に不足を告げるので自ら同橋の請負人となり、極く僅少の請負金額で請負の形式を採り、以後日夜部落民を督勵して橋の完成に努力した、かうした氏の献身的行爲は、それが唯土木事業に關する功勞であるのみならず、實に世道人心に寄與するところも亦尠くない。

**役場書記の活動。** 和賀郡飯豐村役場書記の齋藤文夫は時局匡救町村土木事業の實施に當つて村長を助け、計畫、測量、調査に方つた夫れは職務上當然のことであるが、工事施行に當つて技術的知識の無いのを遺憾として參考書籍を購入して研究すると同時に、土木管區にも屢々出頭して同村方面受持の技手から種々教を受け必要な知識を獲ることを怠らない、一方役場に於ては土木事務の外學務戸籍などの主要な職務を受持ち、劇しい務めに服しながらも出勤前に必ず工事場を巡視し、更に退廳後も亦直ぐに巡視に赴き、日曜になれば終日現場に出て一日も之を欠くことなく丁張も自身で施行し、請負人や就業者をよく指揮督勵して工事を非常に順調に捗らせ、完全な道路及び橋梁を築造することが出來た、勞働賃金も他に比較して最高賃を與へて匡救事業の目的を達成することが出來たのはただただ同人の指導の宜しきを得た賜であると、村民は感謝してゐる。

**部落の共同作業。** これは稗貫郡湯口村字鍋倉部落のこと此部落は國道四號線及府縣道湯口花卷川戸線を距ること約一里餘のところにあるが、部落と國道や府縣道とを連絡する現道路は一部を除いて他は殆どわずかに駄馬を通する程度のもので、自動車の通行するやうな道路は部落民が多年間その實現を渴望してゐるところであつたが、折も折今回の匡救土木事業は全く大旱に慈雨を見るが如きものと狂喜し、部落民としては共同一致し萬難を排して之が完成を期すべきであるとし、先づ工事着手前に部落民が會合して共同誓約を作つた、即ち設計內容の如何に拘らず此の機會に路幅を全部二間以上に擴張し、自動車の來往を自由にする

ため工事の完璧を期すること、夫れから此の目的を達成するためには勞働賃金の多少の如きは勿論問題にすべきでないので、就勞人夫は部落の歩役割とし、各戸必ず工事竣功まで出場すること等を約束し、沿道地主は各自が進んで敷地を無償提供し、且つ道路兩側の樹木等は自ら伐採して交通の障害を除き、路面の乾燥を計り、敷砂利の採取や運搬などのことも亦各戸數割とし、一戸當り〇、九坪宛として降雪前に早や採取を終了して河岸に溜置き、降雪を待つて手橇を利用し、老若男女が多數出働運搬の任に當り、些かも齟齬することなく非常に順調に工事が進行し設計以上の成績を見るやうになつた、これは全く部落民が良く和仲して共同的精神をもつて此の擧に出たものである。

春の雪軒に雀のかまびすし
持寄りの肴賑しさくら狩

巴藤

## 自然か人工か

〇老技術家が婚期に達した息女に向つて「お前も最早や御嫁に行かずばなるまい、役所の若手技師に何某と云ふ有望青年があるが行かないか」「妾も一寸考へまして聞合せましたが彼家では祖母さんが中氣で死んだとのことであります若しか其遺傳の兒が出來ると困るから御斷り致します」「ソウカ御前は子を生む積りか」「母樣御父樣はお可笑な方ねー御嫁に行けば自然に子が生れるわネホホホホ」豫算が成立しても道路は自然には出來ぬ、だが東京市會議員となつたら濱職犯罪者は自然と出來るものでゐる、造物主の戯作が人間の墮落性に自然と生する黴菌作用が、世に生れ出てゝ良いものと生れさること幸ひであるものとがある、世を利し人を利するものよ自然に生れ出てよ。（Y生）